

# 〜〜〜境川の源流を目指す⑤最終回〜〜〜

日時:2020年9月19日(土) 天候:曇り 24000歩 約16km

集合:京王相模原線多摩境駅 10時

コース:多摩境駅→坂本橋→相原中央公園→大地沢青少年センター→境川源流→センター入口停(バス)→橋本駅

参加者:熊坂(L) 勅使河原 平石 大平 高橋文 青松 小林 清水 伊藤美 小島 市村 小田 奥村 滝川 畠  
鈴木孝 三田 鹿島 計18名

ついに境川の最終回です。思えば春まだ浅い3月17日に江ノ島駅をスタートした本シリーズですが、途中新型コロナの影響で3カ月ほど休止となり6月27日に再開し、今日のこの日を迎えることが出来ました。猛暑も去り、朝夕は秋の空気に入れ替わってきましたが、それでも日中は歩くほどにまだ汗ばむ日もあります。今回も定刻までには全員集合、多摩境駅の地下広場でストレッチとコース説明後、京王相模原線の高架に沿って西へ向かうとすぐ境川に突き当たり、そこが前回終点の坂本橋。全員気持ちも新たに源流を目指して力強い18歩(?)を踏み出したのでした。

予報では午後から雨となっていました。朝は一時日差しも出て暑いくらい。しかし歩くにつれ風も北風になり、涼しくなってきました。さすがに上流まで来ると川幅も細くなり、地図で見た通り蛇行が激しく、場所によっては逆に流れているような錯覚を覚える箇所も。大地沢青少年センターからは完全に登山道となり、幅50cmほどの滑りやすい急斜面を登ることに。源流からの帰路は、折り返しは危険と判断し、山越えのルートを通りセンターまで戻りました。今回は一般となっていました。どう見ても「健脚LVI」、それでも全員無事に完歩出来たのは“不幸中の幸い”でした！

<フォトレポート 小島>



改札前の熊坂L。少しスリムになった?..(眼鏡を作らないと)



仲良し二人組。ソーシャルディスタンスで登場です。



前回クールダウンをした地下広場でストレッチ。



熊坂Lのコース説明。(まさか健脚になるとは神様も知らず)



鳩が皆のバッグを狙っているようですが・・・



こら、朝から何やってる！ 場所を考えろ！



予報では曇りも日差しが出て先が思いやられる。



坂本橋からいよいよ境川の源流を目指してスタート。



対岸には彼岸花が・・・秋ですね。



さあ今日のお喋りの話題は何？



これ桜？ 十月桜でしょうか。



怖いお姉さまトリオ？ 追い越すと後で祟りが・・・



こちらは優しい男性陣。男は黙って歩くのみ！



境川沿いの小山町三ツ目広場で休憩。ここで一旦座ると立ち上がるのはおっくうに！



川幅もだいぶ細くなってきた。

この辺りから蛇行が目立つように。

こんな場所に粋な名前の橋があった。



川沿いには歩かず暫く住宅街に入ります。



地元の人と。「オレの土地は900坪だよ」 え、すご〜い！



16号の陸橋下で小休憩。どうやら雨は大丈夫そうです。



この辺りは生活用水が入り込んでいるのか薄濁り。



まるで逆流しているような急カーブで、どちらが上流なのかよく見ないと分からないほど。(蛇行の限界かも)



今にも落ちそうな古い橋。大丈夫？



横浜線相原駅近くの踏切を渡る。



町田市立相原中央公園に到着。



ここでランチタイムとなりました。土曜日にも拘わらずベンチはKWCの貸切り状態。間隔もゆったりと。





園内には福島三春しだれ桜の植樹がありました。



さあ出発、その前に班長さん人数確認を。



スタート前、赤いサルビアと共に集合写真。「花を引き立てている女性陣？」 いや日本語は難しい、逆でした！





境川の川面に広がるこの植物は何？ 花か木か・・・



カメラを構える市村さん・・・それを背後から内緒で盗撮！



緑溢れる河川敷の道。だいぶ涼しくなってきた。



この家のテラス、ビヤガーデンに最適かも。



屋根の上にはアオサギが。うだつの代わり？



左側には遊水地が。町田市と相模原市の境目。



本流は右。このような流れが入り込む。



遥かに奇妙な形の山がみえますが名は？



水分補給の小休止。もうゴールまでだいぶ近くなった。



ここでも鋭角のカーブ。まるで中州のように見える。



青少年センター入口に到着。



境川はこの橋の下に。



こんな細い流れになっています。



いよいよ山の雰囲気漂ってきました。



お疲れ気味の人もいるようですがもう一息です。



こんな木道もあって子供達には楽しそう。



むろんシニアの足にも優しい道です。



到着したキャンプ場前で休憩。



僅かな流れが見られます。



横から入り込む流れもあった。



本番はこの先、最後まで頑張っ！



ここからは滑りやすい急登坂路となる。



やった～！ついに極めた境川源流。頑張って登って来た甲斐が有りました！ この水が片瀬港まで続いているのです。  
●本日のレポートはここまで。実は予備を含め電池残量が殆どなくなったうえ、急登坂で足元が滑り立ち止まって撮る余裕もなく、奮闘中の皆さんの写真がありません。辛くもこの源流踏破記念の集合写真だけは何とか撮れたので、良しとすることにします。



<源流付近のルート図>

← 往路      ← 復路

◆この境川の源流については諸説あり、一つは地元の研究者たちが唱える「人造湖の城山湖が出来たことで、境川の源流は湖に沈んでしまった」と言う説。もう一つは草戸山の斜面を流れ落ちる流れが源流と言う説ですが、現在ではこちらの場所に「境川源流」の標識が立てられています。しかし上流域は沢が枝分かかれし、どれが源流なのか特定しづらいのも確か。むしろ「湖に沈んだ」説の方が、私には歴史のロマンが感じられます。

因みに草戸山のあるこの辺りは町田市西端ですが、境川を挟んで右岸は相模原市となり、古来より武蔵国と相模国の国境となっていました。もともと蛇行が激しい川で、歩いていると町田市と相模原市の間を行ったり来たり。市境が川に沿ってクネクネとしていることを、この目で実感することが出来た最終回でした。

### <今日の一言>

5回に分けて歩いた52kmの境川。全コース踏破した人、一部だけしか参加出来なかった人…それぞれの感慨を込めて幕を下ろしましたが、源流はまさに“深山幽谷”の風情で、達成感を十分に味わうことが出来ました。第1回目ではダウンジャケットを着込んでいたのが、最終回はまだ薄着でのウォーク。この間の季節の移ろいが感じられました。

熊坂Lには毎回の下見と本番で大変お疲れ様でした。さあ次は何処の川?…『三途の川』だけはまだご勘弁を!

END